

「IFRS対応コンサルティング」 説明資料

「はじめに」

弊社HPに訪問し、IFRS対応コンサルティングについてご検討いただき有り難うございます。

弊社のIFRS対応コンサルティングの内容につき、記載申し上げます。

当該資料は長文に及びますので、お読みいただくのに多少のお時間を頂戴することをご了承の上、次ページ以降にお進みください。

2010年3月

株式会社フューチャークリエイト

代表取締役 公認会計士

鶴巻智規

1. IFRS対応業務の概況

コンサルティングをご説明申し上げるに当たり、IFRSへの対応業務というものを考えてみます。

貴社のご理解ではどのようなものをイメージされているでしょうか？様々なコンサルティング会社、監査法人が多くの情報を提供していますので、弊社もそれらの情報を整理いたしました。

その感想は、

「IFRSを取り巻く環境がJ-SOXへの対応の時に非常に似てきている」

というものでした。

「IFRSへの対応は企業を変革させる必要がある」

「システムの導入が不可欠である」など。

いつか来た道のごとくです。

J-SOXの時に騒がれた内容としては、

「リスクへの対応は企業を変革させる」

「文書化のシステムが必要だ」

「老朽化したシステムでは乗り切れない」などでした。

一方で、クライアント企業様などから頂戴する意見の中には、J-SOXのように早く初めて無駄なコストをかけたくないというものがあります。

提供されている情報からすれば、両者が似ていることもあり、このような意見は当然であると弊社は考えます。

また、クライアント企業様などと意見交換をさせていただきますと、IFRSへの対応につき、「何をやってらいいのかよくわからない」というご意見も多数頂戴いたします。

提供されている情報として、

「会計基準同士の差異を認識し、各企業における現状を把握し、各企業でアカウントティングマニュアルを策定し、それを業務プロセスや決算プロセスに適用する。また、教育訓練が必要である。」

という説明がなされているため、やるべきことはわかるのでは？と思いますが、

「具体的に」

「なにから」

手をつけるべきなのか？ということはいメージしにくいとのことでした。

IFRSへの対応は、強弱はあるのですが、領域がすべての勘定科目に渡ります。そのため、範囲が広く、「概念」は分かるものの、「(具体的に、及び実務的には)とらえどころがないもの」であることは確かです。

2. IFRS対応業務の本質

IFRSへの対応は、**会計基準の変更への対応**に過ぎません。

会計基準が変更になる際に、貴社は今までどのように対処してきたでしょうか？会計ビッグバンの際の退職給付や金融商品会計に対して、どんな対応を考えましたか？

- ・まずは会計基準を読み解く。
- ・必要な情報を集められるか検討する。
- ・(試算を行ってみる。)影響を把握する。
- ・対策を講じる時間や手段があれば、経営の観点から対処を行う。
- ・会計処理を行う。

このうちどこかのタイミングで監査法人に相談し・共有し・認めてもらうという作業もあったでしょう。これをIFRSに当てはめると、

- ・IFRSを理解する。
- ・必要な情報を集められるか検討する。
- ・影響を把握する。
- ・対策を講じる時間や手段があれば対処を行う。
- ・会計処理を行う。

監査法人への相談・共有・承認も必要です。

つまり、いつもと同じです。特段難しいものとお考えにならない方がよいと思います。

ただし、IFRSの場合は変更になる会計基準が多く学習に時間がかかります。また会計基準自体に細かい内容が記載されていないものも多数あるため、具体的な処理に至るまでの検討時間がかかります。加えて、会計基準が抽象度の高い言葉で書かれているため、理解するまでの時間がかかります。これらの特徴を除き、あくまでも会計基準の変更です。

3. IFRS対応の要点

IFRSへの対応は時間的な余裕があります。現在2010年、適用は早くて2015年3月期、あと5年ほどあります。2015年3月期の開示に対応するためには2013年3月末の貸借対照表からはIFRSベースでの開示を求められますので、より厳密には2013年3月末までに対応を済ませておくのがベストです。

この長い期間のIFRS対応業務の最終目的は何でしょうか？

「2015年4月以降の会計処理がIFRSに準拠すること、2015年4月以降はスムーズにIFRSベースでの開示に至る決算業務が行えること。」

これが、どの企業様でも共通の最終目標であると考えます。

「共通の会計処理を実現するため、システム基盤をそろえ、スムーズな決算体制を構築する。」とか「シェアードサービスを導入することで、情報の画一化をはかり、処理の速度をあげ、経営に資する。」というものは、いつでも必要な都度行うことで、IFRS対応の目的ではありません。

もちろん、同時に進行させるプロジェクトとして設計することで、うまくいくという側面もあるとは思いますが、あくまで手段です。

では、対応業務を最小限にすることを前提として、最終目的が達成できる方法論は何でしょうか？

「今と何も処理が変わらない」

という結論が見いだせるのであれば、対応業務は最小限になります。

「それはできないだろう。日本基準とIFRSは違うのだから。」

というご意見を頂戴することになると思いますが、すべての基準が違う訳ではありません。また、IFRSには細かい点が記載されていない場合があります、解釈の余地があります。

解釈次第では、現状が最も企業の実態を表すと考えられることもあり、その場合には何も変更しないことがIFRSに準拠することになります。

実態に即した会計処理を促すための、最低限のルールを定めたのがIFRSだといわれています。そうならば、このような結論も導出できる場合があります。

最終目的である「IFRS準拠を日常業務化すること」を見据え、じっくりと時間をかけて貴社にとってベストな道筋を検討していくことが重要となります。試行錯誤の結果、何も変えないという結論がでる場合があるのですから、処理を変えなければならないという視点で望む必要はありません。もちろん、すべて変えなくてよい訳ではありません。

すなわち、IFRS対応の要点は

・IFRSを使いこなせるぐらいに理解して、処理の論拠を策定すること

・適用年度の次の年度を常に見据えること

になります。

4. IFRS対応における各社の悩み

IFRS対応の上で、様々な悩みを頂いております。

まずは、

「人を割けない」

というものです。経理マターですから、経理担当者が主体となって行うべき業務になりますが、四半期決算、コンバージェンスへの対応と多忙を極めていらっしゃる状況にあり、IFRS専任者を作ることができないという悩みです。

次に、

「IFRSが難しく、理解しがたい」

というものです。多数の国で採用できる会計基準という理念のもとに作成されたIFRSは、抽象度の高い言葉で作成されている部分が多く、設例も少ないという特徴があるからでしょう。

加えて、

「具体的に何をしていけばよいのか分からない」

という悩みも頂いております。

5. 各課題とコンサルティングメニュー

弊社は前ページの課題に対し、プロジェクト初期段階では、以下のコンサルティングメニューを提供いたしております。

①人を割けない、専任者を置けない

(メニュー)

- ・定期的な打ち合わせ
- ・セミナー形式の勉強会

経理担当者が日常業務の合間に、IFRSを理解できよう定期的に打ち合わせの機会をもち、学習しつつ、貴社固有の論点を抽出していきます。IFRS学習の過程で浮かび上がる自社処理の疑問点をディスカッションベースで解消し、処理の選択肢に応じた論拠の検討を行っていきます。専任者を設けなくとも経理担当の皆様で理解を深めていただくことで分担しながら対応を図ることができます。

打ち合わせによる検討結果や課題は整理してご提出申し上げます。

②IFRSが難しく、理解しがたい

(メニュー) ・①に同じ

自社処理を思い浮かべていただきながらIFRSを学習する機会をもち、ディスカッションベースで疑問を解消していくことで理解を深めていただけます。

③IFRS対応業務を具体化できない

(メニュー)

- ・スケジュール立案助言

IFRSの理解を深めていただいているフェーズに応じて、次にやるべきことをディスカッションしながら策定していきます。時間がかかる課題や経理のみで対応できる課題など、種々の課題がでてくる中で、手を付けやすいところ、早く対応しないと間に合わない可能性があるところなどをご認識いただき、各企業様にフィットするスケジュールを一緒に策定していきます。

策定されたスケジュールは整理・調整した後、ご提出申し上げます。

プロジェクトが進んだ後の課題に応じたコンサルティングメニューは以下のとおりです。

- ・内部統制変更助言、J-SOX対応合理化支援
- ・子会社処理代行 ・子会社担当者教育 ・他部門教育支援・代行
- ・親会社IFRS処理・開示作成支援・代行
- ・アカウンティングマニュアル作成支援

なお、ご希望の場合はインパクトアセスメントも受託いたしますが、推奨はいたしません。

6. 弊社コンサルティングの特徴

弊社は、5. で記載したように、種々の手法を提供可能でございます。

クライアント様と現在の課題につき、ディスカッションさせていただいた後、弊社のサービスのうち必要な部分を使っていただく形となります。

IFRS対応は会社様ごと理解の進み具合も異なり、また抱えられると予想される課題が異なります。そのため、弊社コンサルティングはオーダーメイドになります。大手コンサルティング会社のように、方法論がいくつかあり、目標を高いところにおいて実行するきれいな対応は行えません。むしろ、各企業様の実情に応じて、実務の観点からのコンサルティングを実施いたします。必要な場合には、作業も実施いたしますが、時間的な余裕がある現在では、各企業様の目標設定や課題の抽出を実務的な観点でアドバイスさせていただき、企業様の負担が最小限で済むようにという視点でのコンサルティングを行わせていただいております。そのため、コンサルティング期間も短いものからご準備いたします。

弊社は監査法人出身者のみで構成された会計コンサルティング事務所です。

J-SOX適用の際にも、過度な対応を行った企業様を散見する中で、最終的な監査法人の合意ラインを目指した最小限の対応を実施して参りました。結果として、クライアント様には無駄な対応をさせずに済んだものと自負しております。

監査法人側の合意は彼らの納得性により形成されます。納得性を得るためには明確な論拠の策定が必要となります。論拠を策定するためには、IFRSという会計基準を理解し、使いこなすことが必要です。また、どのような論拠であれば納得するのかは、弊社の熟知したところでございます。

弊社は、クライアント企業様はもとより監査法人の方々からも、納得性のある論拠を提示し、合理的にプロジェクトを推進することで信頼を得ております。

長々とした文章をお読みいただきまして、大変感謝いたしております。弊社コンサルティングにご興味がお有りでしたら、お手数ですが、以下の連絡先までご一報頂けますでしょうか？ご訪問の上、コンサルティングのご説明を申し上げます。

連絡先

Tel:03-5928-5915

Mail:info@futurecreate.net(HPの「お問い合わせ」をクリック)

担当:鶴巻、菊地、田中